SHOW-HEYシネマルーム

★★★★★

西遊記～はじまりのはじまり～（西游 降魔篇）

2013年・中国映画
配給／日活、東宝東和・110分

2014（平成26）年10月8日鑑賞	東宝試写室

Data

監督・脚本・製作：周星馳（チャウ・シンチー）
出演：文章（ウェン・ジャン）／舒淇（スー・チー）／黄渤（ホワン・ボー）／李尚正／陳炳強／羅志祥（ショウ・ルオ）／張超理（チャン・チャオリー）／釈延能／周秀娜（クリッシー・チョウ）／程思寒

みどころ

「ありえねー」「つかえねー」に続いて、「香港の鬼才」周星馳監督が、「とんでもねー」物語を！本作の合言葉は、「誰もが知っている西遊記、しかし誰もが知らない孫悟空」。つまり、同監督は本作で、三蔵法師こと玄奘が孫悟空、沙悟浄、猪八戒という三人のお供を連れて天竺に旅する物語の「はじまりのはじまり」を描いたわけだ。

したがって、そこではあらゆる自由な発想がＯＫ。さて、人間の想像力はどこまでハチャメチャに広げることができるのだろうか。

本作を楽しむポイントの第１は、とことんバカになること。そして、第２は美女妖怪ハンター段の魅力をタップリ味わうことだ。ある意味、「ロミオとジュリエット」以上の悲劇の中から、西遊記の「はじまりのはじまり」へ、大きな応援を送りたい。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■ありえねー、使えねー、に続いて、とんでもねー！■□■

今や「韓国の鬼才」と言えばキム・ギドク監督、「日本の鬼才」と言えば園子温監督だが、「香港の鬼才」と言えば周星馳（チャウ・シンチー）監督。そんな説はどこにもないし、まともな映画評論家は誰もそんなことは言っていない。しかし、『カンフーハッスル』（０４年）（『シネマルーム１７』４８４頁参照）で「ありえねー」映画を監督・製作・主演し、『ミラクル７号』（０８年）（『シネマルーム１９』４２１頁参照）で「使えねー」宇宙生命体を登場させて、監督・脚本・製作・出演した周星馳が、本作では「とんでもねー！妖怪娯楽バトルエンターテインメント」映画を監督・脚本・製作した。

周星馳監督を一躍有名にした、趙薇（ヴィッキー・チャオ）も出演した『少林サッカー』（０１年）を私はテレビでしか観ていないが、『カンフーハッスル』と『ミラクル７号』の２本を観ただけで周星馳監督作品の規格はずれの面白さは十分理解できる。『西遊記』は、『紅楼夢』、『三国志』、『水滸伝』と並ぶ「中国四大名作（四大小説）」とされているから、いくら周星馳監督でも、そんな「古典」を勝手にいじりまくって「ありえねー」ストーリー展開をさせたり、「ありえねー」映像を作り出すのは到底ムリ。そこで、彼がひねり出した手法とは？そんな周星馳監督を見ると、彼を「香港の鬼才」とする私の説も説得力が出てくるのでは・・・？

■□■なるほど、この邦題はグッド！■□■

『西遊記～はじまりのはじまり～』　11 月 TOHO シネマズ有楽座他、全国ロードショー
(C) 2013 Bingo Movie Development Limited

ちょっとした時事問題を解説するについて、近時はよく「おわりのはじまり」というタイトルが使われる。これは非常に便利な言葉で、たとえば「中国共産党のおわりのはじまり」、「大阪維新の会のおわりのはじまり」、「朝日新聞のおわりのはじまり」等、どうにでも使うことができる。そして、そんなタイトルをつけて、中国共産党や大阪維新の会そして朝日新聞のこれまでの活動を整理、分析しながら問題点を指摘していけば、そのタイトルに相応しい内容の論文（？）を書くことができる。しかし、それなら「はじまりのはじまり」も同じように便利に使えるかというと決してそうではない。

本作の原題は『降魔篇』だが、これはストーリーの内容に沿ってつけられたもの。それに対して、邦題の『はじまりのはじまり』が主張したいのは、まさに周星馳監督は、「誰もが知っている『西遊記』」を映画にするのではなく、「誰もが知らなかった『孫悟空』」をテーマにしたということだ。日本人が『西遊記』をよく知っているのは、夏目雅子が三蔵法師を、堺正章が孫悟空を、岸部シローが沙悟浄を、西田敏行が猪八戒をそれぞれ演じた日本テレビの『西遊記』（７８年１０月１日～７９年４月１日）のおかげだ。ゴダイゴが歌ったエンディング曲『ガンダーラ』（７８年）も大ヒットした。したがって、誰もが知っている『西遊記』とは、この三蔵法師が孫悟空、沙悟浄、猪八戒と共に天竺を目指して旅する物語。しかし、周星馳監督が本作で主張したのは、そんなお馴染みの『西遊記』が誕生する前に、「４人が出会うまでの『はじまりのはじまり』の物語があった。」ということだ。

なるほど、なるほど。しかして、それはどんな物語？邦題はそんな風に興味を持たせることができるから、この邦題はグッド！さあ、「とんでもねー！妖怪娯楽バトルエンターテインメント」の開幕だ。

■□■本作の楽しみ方その１　既成概念を捨てること■□■

『西遊記～はじまりのはじまり～』　11 月 TOHO シネマズ有楽座他、全国ロードショー
(C) 2013 Bingo Movie Development Limited

日本人は誰でも、桃から生まれた桃太郎がイヌ、サル、キジを連れて鬼ヶ島まで鬼退治に出かける『桃太郎』のおとぎ話をよく知っている。したがって、天竺に向かう三蔵法師こと玄奘のお供が、猿の孫悟空、河童の沙悟浄、豚の猪八戒という『西遊記』の設定には違和感はない。また、子供の頃から絵本でそのユニークな姿を見ているから、恐ろしいというイメージは持たないはずだ。

周星馳監督の「ありえねー」世界観を体現した映画を楽しむための大原則は、肩ひじ張らず「バカになること」だが、本作を楽しむ方法はそれ以外にも２つある。その第１は日本テレビの『西遊記』で観た可愛らしい三者三様の猿、河童、豚の既成概念を捨てることだ。退魔師（妖怪ハンター）としてはまだ新米の陳玄奘（文章（ウェン・ジャン））が最初に出会う試練は、川に潜む半魚半獣の妖怪との対決。ＣＧを駆使し、シーソーの原理に則

り、飛び入りとしてチョー太っちょの女性まで登場させて半魚半獣の妖怪と闘う第１ラウンドのシークエンスは、十分に面白い。これは、厳格なルールに則った柔道やレスリングの試合はそれなりに面白いが、場外乱闘あり、隠した凶器の使用ありというハチャメチャなプロレスの試合が面白いのと同じ理屈だ。

韓国映画『グエムル　漢江の怪物』（０６年）（『シネマルーム１１』２２０頁参照）では、グエムルの造形が最大のポイントだったが、本作では河童であるはずの沙悟浄が、何とも恐ろしい「半魚半獣」の姿で登場するのがポイントとなる。村民との連携プレーによってこの妖怪を陸上に上げてしまえば、しめたものだ。ちなみに、沙悟浄は水の妖怪。子供が川で溺れているところを助けようとしたところ、村人に誘拐犯と間違われて殺され、川に投げ捨てられたらしい。そんな彼の魂が、憎悪と憎しみから半魚半獣の妖怪と化したわけだ。人間の姿に変わった妖怪に対して、玄奘は師匠（程思寒）の教えどおり、『わらべ唄　三百首』を歌って聴かせることによって、妖怪の魔を追い払い、善だけを引き出そうとしたが・・・。

■□■本作の楽しみ方その２　ヒロインの魅力をタップリと！■□■

『西遊記～はじまりのはじまり～』　11 月 TOHO シネマズ有楽座他、全国ロードショー
(C) 2013 Bingo Movie Development Limited

西遊記のストーリーには、日本テレビの『西遊記』で描かれたとおりの誰もが知っている「定説」がある。それと同じように、弓の名手で「鎮西八郎」と称した源為朝は、保元の乱（１１５６年）で敗れて伊豆大島に流され、追討を受け自害したという「定説」があ

る。しかし、同時に源為朝についてはたくさんの「為朝伝説」がある。その１つが琉球に逃れ、その子が琉球王舜天になったという説だ。これが『椿説弓張月』で、私は中学生時代に宝塚大劇場でこれを鑑賞し、大感激した記憶がある。更にとんでもない説として、実の兄の源頼朝によって平泉で弁慶らとともに殺された源義経が、実は中国大陸にわたってチンギス・ハーンになったという説もある。このように、人間の想像力はいくらでも自由に広げることができるから、「定説」以外の仮設、珍説はいくらでもＯＫだ。しかして、本作で周星馳監督は妖怪ハンターとしては未熟な玄奘を、ことあるたびに助ける美女妖怪ハンター・段（舒淇（スー・チー））を登場させるとともに、この段と玄奘との恋愛ドラマをストーリーの至るところに埋め込んだ。

そうなると、本作の本来の主役は玄奘だが、段の役割が玄奘以上に大きくなるのは当然で、本作の成否は段の魅力にかかってくるといっても過言ではない。そこで段役に抜擢されたのが、私の大好きな台湾の女優で、『トランスポーター』（０２年）（『シネマルーム２』１８８頁参照）でハリウッドデビューも果たした舒淇（スー・チー）だ。舒淇演ずる女退魔師・段は周星馳監督が本作で勝手に創作した（でっちあげた）キャラだから、いかようにも設定することができる。そこで周星馳監督は、段を数人の手下を従えた退魔師の女頭目で、金の腕輪を自由自在に操る実力者妖怪ハンターと設定したうえ、実は「将来の夢は良妻賢母として結婚して普通に暮らしたいと考えており、無邪気でかわいらしい面を持つ」女性と設定した。これがきっと、周星馳監督の理想とする女性像なのだろう。本作の楽しみ方その２は、そんな美女、段の魅力をタップリ味わうことだ。

段の顔見せは、第１ラウンドで玄奘が半魚半獣をわらべ唄で改心させるのに失敗したシーンとなる。玄奘のわらべ唄を聴きながら、人間の姿に変わった半魚半獣がうっとりその声に心酔していくのではなく、逆に次第に獰猛な顔に変身していく中で登場した段は、鮮やかなお手並みで風呂敷のような布に半魚半獣を包んで退治したから、玄奘は唖然。

■□■第２ラウンドの謎の美男子はチョー強力！■□■

第２ラウンドの舞台は、山奥の巨大な料理店。この店の売りは、外はパリパリ、内はジューシーな豚の焼肉だが、いかにも怪しそうだ。周星馳監督は第１ラウンドでも、前座に怪しげな手法で半魚半獣を退治したと豪語するインチキ道士を登場させたが、第２ラウンドの前座には、いかにも軽薄そうな尻軽女とハンサムでもないのにこの女に惚れられている男という１組のアベックを起用。当然ながら、このアベックはいとも簡単にチョー美男子の店主（後の猪八戒）の餌食になってしまうが、それはあくまで前座。ちなみに、この猪八戒は浮気をした妻とその相手を殺して以来、ハンサムな仮面をかぶることを好んでいるらしい。

この店は一見多くの客で繁盛しているようだが、妖怪ハンター玄奘の目にはそれが死体累々の山と見えたのはさすがだ。その結果、店員たちが次々と玄奘に襲ってきたから、格

闘能力がイマイチの玄奘は危機状態に。そこで再び登場したのが段で、手下たちを簡単にやっつけた段は、いよいよ正体を見せてきた美男子と対決することに。

ここで段は金の腕輪を次々と空中に飛ばし、自在に操って豚に変身した美男子に立ち向かってこれを粉砕。何とかこの豚も例の風呂敷に包んだが、こちらは半魚半獣以上に強力だった。風呂敷の中がゴソゴソと動き始めたと思うと、何と豚は巨大なイノシシに変身し、文字どおり段たちに猪突猛進してきたから、段と玄奘はほうほうの体で逃げ出すことに。その結果、この巨大イノシシとの対決は、第３ラウンド、第４ラウンドに持ち越されることになったが、さてその展開は？

『西遊記～はじまりのはじまり～』
11月 TOHOシネマズ有楽座他、全国ロードショー
(C) 2013 Bingo Movie Development Limited

■□■孫悟空はなぜ五指山に幽閉？その狡猾さは天下一品。■□■

日本テレビ版『西遊記』で堺正章が演じた孫悟空は愛嬌タップリだったが、本作で孫悟空を演じるのは、メチャ面白いドタバタ喜劇だった『クレイジー・ストーン～翡翠狂騒曲～（瘋狂的石頭／ＣＲＡＺＹ　ＳＴＯＮＥ）』（０６年）（『シネマルーム１７』３０９頁参照）に出演していた黄渤（ホワン・ボー）。『クレイジー・ストーン』の評論で、私は「３００万元の製作費で２０００万元の興行収入！　こりゃ、２００６年の中国映画界の話題にならないはずがない。そんな、中国では珍しいスピーディーで賑やかなドタバタ喜劇、そして有名俳優ゼロ（？）の映画がコレ！」と書いた。しかし、去る９月２８日に観たハリウッド大作『猿の惑星　新世紀（ライジング）』（１４年）にも負けないくらいのサル役で熱演していた黄渤の姿を観た以上、それは訂正しなければ・・・。それはともかく、この孫悟空が、「全ての妖怪の王の中の王」、「様々な悪行により、仏に五指山近くに５００年もの間幽閉状態に置かれる」「狡猾で陰険で根に持つ妖怪」と言われているのは一体なぜ？その話しは、結構複雑だ。

玄奘の師匠は、最初の半魚半獣退治に失敗してしょげている玄奘に対して「妖怪と化すのは心が魔に侵されたから。我らは魔を追い払い、善だけを残す。お前にはほんの少し何かが足りなかった。それが分かれば、その時わらべ唄の力も分かるだろうよ。修行に励め」と慰めていた。その師匠は、更に謎の美男子が変身したイノシシ退治に向かおうとする玄奘に対して、「あの妖怪を倒せるのは、五指山のふもとに閉じ込められた孫悟空だ。だが、

『西遊記～はじまりのはじまり～』　11月 TOHO シネマズ有楽座他、全国ロードショー
(C) 2013 Bingo Movie Development Limited

悟空は狡猾で根に持つタイプだから気を付けろ」とアドバイスしたが、さて、玄奘はそれをどのように受けとめるの？

五指山にたどり着いた玄奘は洞窟の中で孫悟空と出会ったが、何とその姿は外見が青白くはげた老人。その老人は玄奘に対して「オレが孫悟空だ。５００年ぶりに人がきた」と喜びながらさまざまな「提案」をしたが、こんな狡猾な孫悟空に玄奘のような単純な若者がホントに対抗できるの？玄奘の目的は、あのイノシシ退治のために孫悟空の力を利用することだが、逆に孫悟空が幽閉状態から脱出する道具として玄奘が利用されるだけではないの？それが心配だが・・・。

■□■この「色仕掛け」の品格は？段の女ゴコロは？■□■

最初の半魚半獣退治に登場した妖怪ハンター・段は１人だったが、山奥の料理店で別れた後、イノシシ退治のため１人五指山に向かう玄奘を、諸葛孔明顔負けのある「色仕掛けの計」で誘うのは、「チーム段」の女頭目としての段。妖怪ハンターとして実力派の段が、なぜ玄奘のようなひよっこの妖怪ハンターに惚れたのかはわからないが、私が想像するに、それはきっと玄奘の一途さだ。私なら段のようないい女から「女が目を閉じたら、

『西遊記～はじまりのはじまり～』(C) 2013 Bingo Movie Development Limited
11月 TOHO シネマズ有楽座他、全国ロードショー

キスするものよ」と言われたら即座にOKだが、修行中の玄奘はそれでも「色恋とは無縁です」と拒否したから、立派なものだ。もっとも、私だって初心な学生時代はそんな玄奘に近い時代もなかったわけではないが・・・。

それはともかく、趙薇（ヴィッキー・チャオ）の初監督作品『Ｓｏ　Ｙｏｕｎｇ～過ぎ去りし青春に捧ぐ～（致我們終將逝去的青春）』（１３年）を観て私は、一度恋に落ちた中国女性のしつこさ（？）にビックリさせられたが、そのしつこさは本作の段も同じだ。しかも今度は、みんなの見ている前で玄奘が段とエッチすることを強いるという、数人の男と１人の美女（周秀娜（クリッシー・チョウ））から成る「チーム段（？）」が企んだあるインチキ芝居にビックリ。こりゃ、ちょっと品格の面でいかがなもの？ここで、玄奘は「この女とエッチしなければ、お前の命はないぞ」と脅されたが、それでも玄奘は断固拒否。ここまで拒絶されたら、いい加減女は諦めざるをえないはずだが、さて段は・・・？

▪□■３人の退魔師と孫悟空との対決は？■□▪

本作のメイン・イベントはラストに見る、お釈迦様と孫悟空との「対決」だが、その前座になるのが、３人の個性的な退魔師（妖怪ハンター）と孫悟空との三者三様の対決だ。バカバカしいほど想像力の発達した周星馳監督は、ここで①虎の構えをした拳の達人（釈延能）、②自らの足を巨大化させる術を使う天残脚（張超理（チャン・チャオリー））、③「大阪のおばちゃん」そっくりの４人の姥桜を従えた、ちょっとオカマっぽい空虚王子（羅志祥（ショウ・ルオ））を登場させ、孫悟空との対決で「我こそは最強の退魔師」という「実力」を競わせたが、さてその結果は？

『西遊記～はじまりのはじまり～』
11 月 TOHO シネマズ有楽座他、全国ロードショー
(C) 2013 Bingo Movie Development Limited

この三者三様の退魔師と孫悟空との戦いはユニークというかバカバカしいというか、しかし、とにかく楽しいから、こりゃ必見！何ゴトもここまで徹底すれば大したものだ。『猿の惑星　新世紀（ライジング）』での「エイプＶＳ人間」対決はトコトン真面目に「共存と対決」の構図を描いたが、こちらの「退魔師ＶＳ猿（＝孫悟空）」の対決は、とにかくエンタメ色でいっぱいだ。そして、その対決における実力は、圧倒的に猿の方が上！

■□■孫悟空とお釈迦様「対決」は？■□■

仏サマは尊いもので、いつも手を合わせなければならない対象。中国人も、日本人もみんな一応そう教わっているが、仏サマの中で大日如来とはどんな種類、どんな階級の仏サマ？それをきちんと説明できる人は少ないのでは？また、中国人も日本人もみんな、孫悟空がいくら頑張ってもそれはお釈迦様の手のひらの上で踊っているにすぎなかった、というお話を知っている。これは西遊記の第３話「釈迦の手のひら」のお話しだが、本作ではそのお話しをスクリーン上で表現するシークエンスが、クライマックスに登場するので、それに注目！ひょっとして、周星馳監督は大日如来様が直接孫悟空とバトルをくり広げる風景を観客に見せつけるの？いやいや、そんなことはありえないはずだ。

去る９月９日に観たラース・フォン・トリアー監督の『ニンフォマニアック』（１３年）１部、２部は「色情狂の女」を主人公にした大変な映画だったが、地球に迫ってくる惑星メランコリアをテーマにした『メランンコリア』（１１年）も、同監督の「死生観」を示した美しくも儚い映画だった（『シネマルーム２８』１６９頁参照）。私が思うに、孫悟空にとっては多分大きな大きなお釈迦様の存在は、この「メランコリア」のようなものだったのだろう。その「対決」に敗北したことによって、孫悟空は狡猾な猿から三蔵法師の良きお供になるわけだが、そのお話しは「西遊記」でタップリと。

■□■ヒロイン段は？そして玄奘の今後の旅は？■□■

ところで、本作のヒロイン段はその後どうなるの？孫悟空が三人三様の退魔師との戦いに勝利したことによって、この三人より更に格闘能力の劣る玄奘に危機が迫ったのは当然。そこで段が玄奘を救うために登場するのだが、その登場自体が奇跡に近い。だって、「男女の愛」においてあれほど徹底的に拒否された段の落ち込みは尋常ではないはずだから。それなのに、なぜ段は三たび玄奘を救うために登場してくるの？そして、明らかに自分より力の強い孫悟空に、どのように立ち向かっていくの？

本作において、玄奘は修行中の退魔師、そして師匠から「何かが足りない男」と言われていたが、このように玄奘のために献身的に闘う段を見て、玄奘はどのように悟りを開いていくの？それが、本作ラストの大きなテーマだ。あえてネタバラシをすれば、その結論は、「男女の愛も、大いなる愛も、大小ない愛」と覚ることだが、その展開は「ありえねー」ストーリーながら、涙を誘うものがある。

玄奘はまだまだ若いが、これだけ貴重な体験をすれば、次には天竺に向かう新たな旅に十分踏み出せるはずだ。そんな、温かい気持ちで本作のラストと玄奘たちの門出を見守りたい。そして、ラストシーンでは、４人（？）が並ぶ構図と、旅立ちのテーマソングにも注目！

２０１４（平成２６）年１０月１４日記